

平成 2 6 年 5 月 3 1 日現在

機関番号：3 2 6 3 6

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：2 3 5 2 0 1 8 4

研究課題名（和文）中国北朝墓誌における特定刻法の伝播に関する基礎的研究

研究課題名（英文）A Basic Study on the Propagation of Specific Carving Styles of Epitaphs in the Northern Dynasties of China

研究代表者

澤田 雅弘（SAWADA, Masahiro）

大東文化大学・文学部・教授

研究者番号：2 0 1 6 2 5 4 7

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000 円、（間接経費） 510,000 円

研究成果の概要（和文）：中国書道史上の名跡の多くは石刻が占めている。従来、それら石刻書跡は原稿である筆跡を忠実に反映していると認識し、書道史もその認識を前提に説かれてきた。本研究では、原稿である筆跡のいかんに関わらず、刻者が自前の刻し方を貫いて特定の書風を刻出する自律的刻法が、時空を越えて伝播している実態を具体的に明らかにした。

これによって、従来の認識が必ずしも石刻の実態を反映しておらず、刻法は常に書法に従属的であるとの従来の通念も否定されるべきであることが明らかになった。また、この事実は、書法に書派あるいは書統があるように、鐫刻にも特定の刻法を伝承する刻派あるいは刻統が存在したことを示唆する。

研究成果の概要（英文）： Many of the masterpieces of Chinese calligraphy consist of stone inscriptions. Up until now stone inscription has been regarded as faithfully reflecting the original draft written with a brush. Based upon such a premise, the history of calligraphy has been related. In this study, we have made clear the fact that the carvers stuck to their own specific carving styles regardless of the original brush traces, and these autonomous carving styles were propagated beyond time and space.

Therefore, traditional recognition does not reflect true conditions of stone engraving. And the generally accepted idea that carving styles are always subject to brush must be denied. The fact also suggests that, just as calligraphy has multiple schools, stone inscription used to have its own branches handing down specific carving styles.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：中国書道史 石刻 刻法 北朝 墓誌 書法 伝承

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 石刻書跡の刻に関する国内外の研究傾向は、おおむね次の両者に分類できる。その1は、書法の関心から発し、鐫刻作業過程に必然的に起こる筆跡との乖離の程度を論じ、石刻の材質や形制による差異や石刻文字が獲得した金石の気に対する審美を説くもの。その2は、刻工の名や署式を収集し、鐫刻に従事するものの身分等に関して史書の欠を補い、史的研究を進めるものである。うち前者の研究傾向は、筆跡を忠実に刻することを鐫刻の当為とするとの通念を前提としている。

(2) 報告者の研究は、この両傾向とは全く異なり、「北魏墓誌の鐫刻について」(平成11年)において、1件の墓誌を複数の刻者が分担して鐫刻し、しかも、それぞれの持ち前の刻法で刻することが普遍的傾向にあることを明らかにし、「劉阿素・劉華仁・張安姫墓誌とその類似書風の墓誌 北魏墓誌の筆者と刻者に関する試論」(平成12年)においては、一類の書法と一類の刻法とはは結合能力がないことを検証し、筆者組織と刻者組織との関係に論及した。これら新知見によって、「今後、墓誌の書風を論ずる場合は、一件の誌石中における刻者の人数や書者との組織関連など、多角的な観点からの検討が必要」になったと認識されるようになった(『中国書法史を学ぶ人のために』平成14年 世界思想社)。

その後、平成18 - 19年度科学研究費補助金萌芽研究「中国北朝墓誌中の同一刻法の分布」において、同日に埋葬される複数の親族墓誌間には、混在する刻法に交じって同一刻法(同じ刻し方)が認められることを発見し、平成20 - 22年度科学研究費補助金基盤研究(C)「中国墓誌工房の基礎的研究」では、その同一刻法の事例を蓄積することにより、墓誌の鐫刻における種々の現象を検出し、それら諸現象を齎す社会的要因を考える

ことによって、研究方法さえ見出しえなかった墓誌工房組織の形態に論及し相応の貢献を果たしたと考えている。また、これら研究成果は、北朝墓誌書法観に対する通念の根本的転換を齎すものと確信している。

(3) 報告者はこの一連の研究過程で、筆跡に従属しない特色ある自律的刻法 すなわち、原稿の筆法(筆遣い)のいかんに関わらず自前の刻し方を貫いていることが明白な刻法の中には、時空を越えて一定規模伝播しているものがあることに気づき、本研究を計画するに至った。

## 2. 研究の目的

北朝墓誌中から、時空を越えて伝播する特定の自律的刻法群、すなわち原稿である筆跡に左右されず同じ刻し方によって同じ書風を刻出する刻法の一群を検出し、それら特定の書風を刻出する自律的刻法の伝播状況を明らかにすることによって、北朝における鐫刻の実態、刻者社会の解明に資することを直接の目的とするが、この成果は自ずから、石刻書跡は筆跡を忠実に反映しているとの認識を前提にしてきた書道史学の石刻観を抜本的に修正することになる。

## 3. 研究の方法

研究対象は、北朝の墓誌拓本および拓本に準ずる原寸の影印本である。現寸影印本は適時購入したが、拓本については、原拓の購入に限界があるため、所蔵機関での当該拓本の調査と撮影を中心にせざるを得ない。所蔵機関での調査と撮影は、北朝墓誌拓本を多数収蔵する大東文化大学書道研究所、淑徳大学書学文化センター、大阪市立美術館において毎年行った。また初年度には、対象資料の収集効率を高めるために、国内外の関係機関所蔵北朝墓誌拓本所在目録を作成した。この目録には、上記の3機関所蔵拓本のほかに、所蔵品目が公表されている中国国家図書館・京都大学人文科学研究所・台東区立書道博物館・

成田書道美術館・東洋文庫・書壇院の各機関所蔵拓本、さらに原寸影印本も加えて作成した。

筆法に埋没しない特定刻法の検出は、拓本や原寸影印本を精査し、複数の刻法が混在する墓誌を探索し、当該墓誌を撮影あるいはスキャンして画像を収集し、それらを印刷したうえで文字単位にカードに分類することにより、各刻法の特徴を整理し蓄積する。この作業を繰り返すなかで、同一刻法を検出し、当該刻法の中から特色が顕著であるもの、一定の規模を有するものを探索した。

#### 4. 研究成果

本研究期間に公刊した論文3件、目録1件の各論旨と意義は以下のとおりである。

「北朝墓誌にみる刻法の伝播 特定刻法[003]について」では、北魏洛陽の元顥・元瑒・元延明・元鑣遠、東魏安陽の李挺・劉幼妃・元季聡、東魏磁州の蕭正表、北齊安陽の竇泰の9誌それぞれの一部分に、特定の風趣を刻出する同一の刻法(特定刻法[002]と仮称)を検出しえた。すなわち、これら各誌には[002]が表現する書風と他の刻法が表現する別の書風が混在し、9誌の各[002]が刻出する書風は同趣である。また、この9誌のうち元顥・元瑒・李挺・劉幼妃の4誌の各部分には、2012年末に論文を公刊した刻法[001]も混在し、4誌の各[001]が刻出する書風もまた同趣である。すなわち[001][002]は、ともに原稿である筆跡に関わりなく、特定の書風を刻出する自律的刻法にほかならない。しかも、その[001]も[002]も、時代・地域・書法・氏族を越えて伝播している。なお、[001][002]が混在する劉幼妃墓誌、[002]が混在する蕭正表墓誌には、[001][002]とも異なる第三の同一刻法が認められ、これも時空を超えて伝播する特定刻法のひとつである可能性も示唆した。時空を超えて伝播する[001][002]の存在は、これまで書法史観に欠落していた刻派あるいは刻統の存在を明示

する意味において重要である。

「北朝墓誌にみる刻法の伝播 特定刻法[002]について」では、筆者が同手である北魏洛陽の李媛華墓誌と元子直墓誌の両誌に混在する[003]は、その八年後の元徽墓誌にも混在する。元徽墓誌の筆者は李媛華・元子直墓誌とは別手である。3誌それぞれに混在する[003]が、原稿である筆跡に従属せず自らが祖述する特定の刻法によって特定の書風を刻出する自律的刻法であり、八年の時を越えて伝播していたことを明らかにした。なお、この3誌にはそれぞれいくつかの刻調が複雑に混在するが、この複雑な刻調の混在は、特定刻法[003]を祖述する同派の成員の習熟の差が反映したものであることにも論及した。この[003]の存在は、[001][002]同様に、刻派あるいは刻統の存在を明示する点で重要であるが、さらに、1件の墓誌の鐫刻に同派の成員が集ったこの事例は、報告者がかつて具体的に例示してきた別刻法を祖述する刻者の分業形態とは異なる点においても重要である。

碑は、墓中に置かれる墓誌とは異なり、一般に風雨、陽射、撲拓等による刻面の漫爛が避けがたく、とくに字口(点画の彫り際)は立碑当初の状態を保ちがたい。このことから、報告者はこれまで刻法の研究対象としてこなかった。「碑における刻法の混在 寧けん碑・孟法師碑の場合」は、碑にも刻法が混在する現象が認められることを、はじめて隋の寧贇碑、初唐の孟法師碑について明らかにしたものである。寧けん碑に混在する諸刻法中には、基調となっている楷書体の結構と基盤を異にする銘石書が一部に混在し、孟法師碑にあっては基調書風と著しく異なる北魏風の刻調が混在する。これらの刻法は、時を越えて伝承された自律的刻法と考えられる。

また、「北朝墓誌拓本所在目録稿」は、本研究の遂行の必要から、北朝墓誌拓本1008種(摹刻・偽刻を含む)の日本における所蔵

機関の敏速な検出のために作成した目録であり、所蔵目録が公開されている大阪市立美術館・京都大学人文科学研究所・淑徳大学書学文化センター・書壇院・台東区立書道博物館・大東文化大学宇野雪村文庫・東洋文庫・成田書道美術館と、中国国家図書館の九機関それぞれの所蔵の有無を明記したものであるが、現寸大の影印本も、本研究にとっては拓本に準ずる重要な資料であるため、現寸大の主な影印本についても、各誌についてその有無を併記した。したがって、本目録稿は、北朝墓誌の書蹟を扱う研究には有効である。

以上の各研究成果を総括して、本研究の研究成果をまとめると以下のとおりである。

1 北朝墓誌の鐫刻には、筆跡に従属しない自律的刻法が時空を越えて伝播していたこと。すなわち「刻派」の概念は、従来の書法史観になかったが、書法に書派があるように、刻法にも刻派があったことを示唆する事例を検出できた。

2 したがって、中国書法史における普遍的認識 鐫刻は原稿である字跡に従属する行為で、刻された字跡はとりもなおさず原稿の筆跡そのものであるという認識 は、少なくとも当たらないとの、報告者年来の知見を補強しえた。

3 また報告者がこれまで多くの事例を指摘してきた1件の北朝墓誌に異なる刻法が混在する現象は、異なる刻法を祖述する刻者が鐫刻を分担したことによって齎されたものであること、また、同日葬の親族墓誌間に同一刻法が認められる現象は、同手もしくは同じ刻法を祖述する刻者によって齎されたものであることを補強しえた。

4 墓誌に限らず、異なる刻法が混在する現象は、碑においても検出できることを隋・唐各1碑について明らかにしえた。

5 以上のことは、「鐫刻は筆跡に従属する」通念の下では考え及ばない書法形成に関する可能性、すなわち、刻者が鐫刻に適した筆

勢を工夫する過程で新たな刻法が創造され、その新刻法から新しい筆法が胎動した可能性さえ示唆する。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

澤田雅弘、北朝墓誌にみる刻法の伝播 特定刻法[003]について、大東書道研究、査読有、第21号、2014、94-105、[www.daito.ac.jp/research/library/](http://www.daito.ac.jp/research/library/)

澤田雅弘、碑における刻法の混在 寧けん碑・孟法師碑の場合、書学文化、査読無、第15号、2014、5-15、[www.shukutoku.ac.jp](http://www.shukutoku.ac.jp)

澤田雅弘、北朝墓誌にみる刻法の伝播 特定刻法[002]について、大東書道研究、査読有、第20号、2013、[www.daito.ac.jp/research/library/](http://www.daito.ac.jp/research/library/)

澤田雅弘、北朝墓誌拓本所在目録稿、書学文化、査読無、第14号、2013、72(1)-36(37)、[www.shukutoku.ac.jp](http://www.shukutoku.ac.jp)

〔学会発表〕(計1件)

北朝墓誌にみる刻法の伝播 特定刻法[002]について -、書学書道史学会、2011年11月13日、大東文化大学

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：

取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6．研究組織

(1)研究代表者

澤田 雅弘 (SAWADA, Masahiro)  
大東文化大学・文学部・教授  
研究者番号：2 0 1 6 2 5 4 7

(2)研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者

( )

研究者番号：